文學と童話（文學）

野村吉司

三

坪田譲治氏は最近文壇で非常に高評を博してゐる作家である。同氏の作品は甚だしく童話文學に類似してゐる。だが童話文學ではない。單に兒童を取扱つた文學が童話文學ではないからである。坪田氏は久しく童話文學作品を童話文學であるとして發表して居られた。多分自分でもそれを童話文學であるかのやうに感違ひして居て自からをられたのであらう。しかしそれは決して童話文學作品ではなくて、單に文學作品だつたのである。さうしてそれが文學作品として提示されたとき、はじめてその本質を承認されたのである。されば氏は主として兒童を題材として取扱ふ作家であつて、童話作家では無かつたことは事實だ。同氏が作家としての位置を高めたある作品にしろ、それは既一度にふりがなをつけ、童話作品として兒童の雜誌に掲載されたものである。童話作品としては、それは餘り大した作品ではなかつた。同氏の作品中の兒童は何れも生活をしてゐない。それは幽靈のごとく同氏の觀念遊戲に從つて、フラフラと動き廻つてゐるのにすぎない。こいつ忍術をつかうさ

夜明けです
黄金の矢が飛ぶ
しゆつ　しゆつ　しゆつ
ことり水車が
廻つてる
水はさら〳〵
しゆつ　しゆつ　しゆつ
さあさ學校だ
靴磨こ
ブラシに靴墨
しゆつ　しゆつ　しゆつ
お家が建つのだ
大工小屋
かんなかけてる
しゆつ　しゆつ　しゆつ
先生だ　先生だ
大股に
歩いてゆきます
しゆつ　しゆつ　しゆつ
——

晩秋

松本勝雄

○矢大臣に眞黒き雲のかかりしと見る間を來たる大粒の雨
○はろばろに空晴れすみて今朝の秋野道を行けば身のからなる
○幾重にも長長つづく掛稻の畦遠く夕陽照りはゆ
○冷え冷えと氣寒き風の通り來る黄昏庭は犬もかよはず
○草原に陽の照りそめてほのぼのと霜のとくるが水氣立ちつつ

新年短歌募集

一、新年に因める歌　三首　新妻久滿男　選
一、勅題「海上雲遠」一首　高久晩霞　選

新徒然草

室生貞信

二

筆持つことすたれ、多くはペンにて事足る世の中なり。趣味ある人はいざ知らず、若人の多くは皆ペンを握りたり。而して書くことの字は水莖のあと美はしきそれならで、金釘流に近き文字一點一劃終り。ペンのやれ柔勢がどうの、筆の持ち方がなつてゐないの、筆法がなど注意されていつ迄ならざる。如何ならん折にても筆なくとも書く事なる人の良寛和尚を誤りての話ならんか

我に一友あり。性來の惡筆にて金の無心を親許に言はすや否や。文字は實用と考ふる人はひて何處まで延ばしてもさまたけなきやうなる文字を心ゆくばかり書きしとなん或る人の語られけるをかし。字は無限の世界にて意に滿たすに足らざるければ、宇宙に向ひ、無限大の大の字を書きしとならん。紙は有限の世界にて意に滿たすに足らざるければ、宇宙に向ひ、無限大の大の字を書きしとならん。紙は有現代の書とはかゝる書を申すにや

『如何に惡運のよい島原屋も日の出のいきほひもけちがついた。これからいゝ事がないにきまつてゐる』
『そのせゐか、何か知らねが、東左衛門が江戸へ行くといふ話がある。今その支度でいそがしい。しかも世間に出した事がねえほんとうの箱入娘、秘藏の娘をもちろんの事、八方に喧傳されて、何處へ行つてもその噂で持ちきり』
『賊の頭は六十餘州に手下のゐない國はないといふ、稀代の大盜が島原屋を襲ひ、數萬兩の大金を强奪して去つた——これは驚天動地の大事件だ。長崎の町はもちろんの事、八方に喧傳されて、何處へ行つてもその噂で持ちきり』
『それから鼠小僧快傳といつ奴だ』

黄金魔刀

(38)　高桑義生作
樋口悦也畫

島原屋父子（十）

大體かういふ次第、すべて大げさなのが巷の噂の特で、島原屋の小町娘をぬ込んで機會をねらつてゐたのだが』その晩二百人の手下をひき連れ乘りこんだ。島原屋もさるもの、三百人の雇ひ人、五十人もの武士がゴロ〳〵してゐて、これまで一度だつて賊に襲はれたことがないといふ自慢の用心棒堅固だから大變な事になつた。双方入りみだれて、まるで戰のやうな騒ぎとど命知らずの盜賊方の勝利となり金銀三萬五千兩、様はそれで大そうお困りだめづらしい寶物を山と積んで引上げた。しかしさすがに島原屋は大きい。その騒ぎを訴へもしない。奉行所から調べに出張つてはじめてこれこれといふ始末なんて大嘘で、實は首領の事生どほり變りもないといふ神變が東左衛門をおさへつふのだから圖太いといつてけ、いふ事をきかなければいゝか、何といつていゝか命を取るといふ手詰め、仕どれだけ金があるのだか底方なしに金を出したといふ事だ』

講談

新年仕事始

皆様お待ち兼ねの！

十二月二十五日ヨリ
二十九日マデ

超特價奉仕

正　中野洋品店　平　二一
電五三

診療

夜間

胃腸　性病

内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科

專門

松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

（見習看護婦募集）

二十箇月明るい
スバラシイ強光反射
トクヨウ35型タカ印電氣ランプ
家庭用　自轉車用　便利ランプ　一圓二十錢
懐中電燈特賣
電池付三十錢ヨリ
タカ印乾電池特約店　高橋時計店
平町二丁目

年令十五六才徒弟サン入用

勉強ノ店
建築美品（良クテ安イ）
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、
山川印優品建具材
平町紺屋町
内外鋸木　建具木材一式　電話平四六〇番
鉋利刃、木羽
余織田材木商店

◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉強ノ當店ニ◎

公債株式賣買
一般證券業務　電話二一七七
平町三丁目

友部株式店

◎賢明なる諸子は瓦礫の裡より金剛石を
◎優秀株をボロ株中より發見せらるべし

自轉車の
リヤカー
フタバ商會
平・新川町・橋際

夕刊
碧城新聞
十二月二十六日發行
（日曜祭日翌日休刊）

贈飛塚前水産試驗場長

珠雲　小野務牛

分手忽々駒隙遷
江雲泗樹夢空牽
欽君卒苦多成果
歳久遙看德業全

寄贈書目

△國民法律（一月號）質問鑑定、大審院判例、法窓問答其社實際的記事滿載（一部十五錢　東京市芝區二本榎一ノ四七其社）

その日〳〵

○

歳末且躁曲の種々相がこゝ三四日中にはいろいろと街頭に、家庭に醸し出される——

△小野道風逝去（康保三）△松平定作生る（寶暦八）△新紙幣發行（明治四）△臺灣征討軍凱旋（同七）△英の發明家ジョージ・アームストロング長逝（一、九〇〇）

27日　12月

好景氣裡に過ぎた今年の常磐地方炭界
事業の活況を語る需要增加

今春以來例年無しに增進の一途を飛躍し來つた常磐炭界はいとし明朗な景氣の裡に今年を終らんとして居る。即ち去る十一日以來二十日迄の各山元の發送高は

營業用一五、一三九車　五八、九七六𨥆　省用一二、〇〇七車　二五、五〇九𨥆　合計一七、一四六車　八四、四八五𨥆

で前年同期に比し營業用に於て一、四一一車一二、三五𨥆を增して居る爲省用が二七三車三、二五七𨥆を減じても尚は差引一、一三八車九、〇六八𨥆の增で上中旬を通算すると一、九四九車一〇、八二〇の增となつてゐる

善美をつくした磐女講堂完成近し
厚意に感謝する正木校長

磐城高女校の講堂新築は其後順調なる進捗振りを見て既に死茸を了して概念的な形態を容易にしのばせてゐる、櫻丘會では既報の如く電飾その他內部裝飾の費用として會員より約三千圓を醵金することになり取纏め中で縣でも之に千圓を豫算に計上され完成後の善美を刮目されてゐる、建物は間口十間、奥行十五間、建坪百五十坪、玄關十二坪、附屬廊下五坪の和洋折衷ネオ・ルネッサンス式建築である

正木校長の話

近く縣が建設する會津中學のそれに比しては幾分劣るかも知れぬがその完成までは斷然縣下一の新な建築である、小田氏の厚意と櫻丘會員諸姉の愛校心、地方諸彦の熱誠に感謝したい

江名港擴張工事
安藝博士の實踏により 愈々監督所で測量開始

縣內有數の漁港として將來を刮目されてゐる江名港はさきに二萬五千圓の匡救工事として一米深の最終浚渫工事を行つたが過般出張した港灣協會安藝博士等の實地踏査により更に擴張の必要を叫ばれてゐたので過般來縣が考案中愈々明十一年度より二十七萬圓の巨費を投じて防波堤浚渫其他の擴張工事を行ふ事に決定、兩三日中平土木監督所の手で實測を開始する事となつた今後縣當局で實設計を樹て愈々完備した漁港實現に努める事になる

•第一年末慰勞會•　平第一

愈々縣が乘り出す 鑛產稅分配調停
來一月七日關係者會同

平、湯本、好間、內郷、飯野、鹿島、磐崎の二町五ヶ村に跨る入山磐城兩炭礦に對する七、八兩年度國稅鑛產稅附加稅分配問題は既報の如く關係町村間で折衝が續けられてゐたが各町村共自己に有利な決定を得やうとして容易に解決を見ぬので遂に縣知事の裁定を仰ぐ事となつたので愈々調停に乘り出す事となり一月七日平町會議事堂に開く選擧肅正事務打合せの際逢林地方課長は前記町村長と會同縣稅附加稅に基いた縣の試案を提示して妥協に努める事となつた

喜多流謡初

平喜多流稽古會の新年謡初會は一月五日午前十時からマルトモホールに東京市伊藤千六氏を招き開催するが好間、湯本、四倉方面からも多數應援あり盛會を豫想さる、曲目左の如し

翁　高砂　巴　羽衣　二人靜　夜討曾我　影法師

其他仕舞　獨吟　連吟

を兼ね公園ときわに年末慰勞會を催すと

鈴木豫備工兵中佐寄附

高久村下高久字馬場出身、豫備工兵中佐滿洲國々道局の建設處長、在チ、ハル鈴木兵一郎氏(磐中第五回生)は公用を兼ね去る廿一日歸省展墓、同日同村青年學校に於て講演を行ひ翌廿二日歸任したが同校及び馬場青年分團が勞力出資で目下建設を計劃中の分團會舘建設資金として各金百圓の寄附したと

斷然縣下一
前回の調査に比べ二千世帶約二萬人增
石城全郡五年間の伸び方

去る十月一日を以て實施した昭和十年國勢調査の本縣人口は廿四日縣廳統計課から發表された人口數は百五十八萬一千五百四十九人で前回の調査、即ち昭和五年に比較して七萬三千三百九十九人(四分九厘)の增加を示してゐる(市町村人口數は別項の通り)全國に於ける人口分布の狀況から見ると本縣人口の順位は第十四位でこの順位は前回と同樣である、而して郡部の首位を占めて居る石城郡は

男十一萬五千四百四十六人　女十一萬二千八百二十九人　合計二十二萬八千二百七十五人(前回調査に比し一萬七千九百三十四人增　割合八分五厘)　世帶數四萬二千七百八十四(前回對比二千百四十四增　割合五分三厘)で各町村內譯次の如し

泉四二二〇　渡邊二、〇一二　植田六、五六五　山田三、一七四　錦六、二四一　勿來一〇、一八一　上遠野四、六八一　入遠野三、八八二　川部三七一四　田人村外三ヶ村組合四、三一七　平二五七四一　飯野三、一七五　夏井二、六五二　高久二五七〇　豐間三、八九六　江名六、九二三　鹿島一八八八　小名濱一一、九二〇　玉川二、五二〇　磐崎六、五〇二　湯本一七、〇〇三　內郷二九九一七　好間一三、五五九　赤井七、二三三　永戶村箕輪村組合四、一七七　澤渡村三坂村組合四、四九二　神谷五、五三七　草野四、六七八　大浦四、二八三　四倉七、六〇一　大野三、八六〇　平窪三、二四九　上下小川組合四、一一六　川前三、一九一

傳染病流行！
今月に入つて早くも十名

この寒さに傳染病が續出してゐるからお互御用心の事——平町で今月に入つての其數は腸チフス、ヂフテリヤ赤痢各三名と疫痢が一名で合計十名を出したこの夏の頃一時續出したきり一寸杜絕れた形だつたが又々頭をもたげ出し、古鍛冶町では久保木忠夫君外一名が續けざまに隔離されたので町內を一齊消毒するやら恟々としてゐる

第二小學筆記帳展

平第二校では今二十六日午後二時から校內に筆記帳展覽會を催したが右は各科の筆記帳を掲示その優秀のものに賞狀を授與するもので珍しい試みとして喜ばれてゐる

童心の銃後運動
『每朝納豆を商ふ感心な第三生徒』

冷い朝な朝なを納豆賣りして慰問金を造つてゐる第二生徒の銃後美談に動かされた第三小學校四年生菅野キワ(一二)外四名の少女逹は『わたし等も一つ働きませう』と先生の許しを受けて數日前から箱納豆賣りを始めた、可憐な童心はいま巷の評判となつてゐる

舞踊講習會
昨今第二校の盛況

郡第三區女教員會並に第一區唱歌遊戲研究會主催の合同舞踊講習會は郡敎育部會郡女敎員會後援の下に昨二十五日午前九時から開かれた第三區女教員會總集會閉會に引續き平第二校講堂で開かれた、出席は約百名の郡下女教員その他で大日本教育舞踊研究會々長今泉薫氏を講師として体育ダンス唱歌遊戲、兒童遊戲等を受講、今二十六日も引續き行ひ最後に女子青年團指導教材資料としての新舞踊(流行の歌謠曲『さくら日本』『影を慕ひて』『波浮の港』等の新作情操舞踊)の指導を受け午後四時盛會裡に閉會した

三百圓のお尋ね母娘
名古屋から平署へ搜索願

名古屋市中區下茶屋町五大曾根幸太郎妻はま子(三六)は去る十月十六日朝長女根延子(四)を連れて家出行方不明となつたが郡內に立寄るらしいからと二十五日幸太郎から賞金三百圓を懸けて平署に搜索願

防犯週間捕り物
舊家に据り込み旅費手當を強要
密行二部長暴力行爲檢擧

平町才槌小路色川製材工場の鋸目立職工東京市深川區東陽二丁目生れ新沼鐵之助(三三)は事業縮少のため去る二十日賃銀十四日分を渡され一月五日限り解職の言渡を受けた處急遽上京して曾て知り合ひの深川區三好町三丁目九ノ二全國勞働同盟主事田中治英(二七)同區木場町四ノ二四同執行委員山中光一(三二)の兩名を連れて二十四日夜十時半頃色川に乘り込み手當二ヶ月分百五十圓と旅費五十圓を要求して拒絕されるや昨二十五日朝九時頃再び同店を訪れ『要求通り支拂はねば東京の仲間を大勢連れて來て爭鬪を起すから『……』と脅しつけてゐる處へ折よく防犯週間で密行中の平署渡部温、渡邊定の兩部長が暴力行爲現行犯として檢擧目下詳細取調中

捲揚機で大怪我
アグリ船の青年機關係 手當効なく絕命

植田町小濱のアグリ船精羅丸機關係り相馬郡原釜町生れ田代孝吉(三三)は去る二十日同地沖合に出漁中つて捲上機の齒車にふれて顏面其他に重傷、二十三日夜小名濱で寄港の上直に同町醫師の手當てを受けたが二十四日遂に死亡した

他店の名を騙る
按摩轢き運轉手
暮の夜を街上の脅威

平町鎌田町居住按摩業久松滿吉(七三)さんは去る十三日夜常陽銀行角附近を流し中通行中の貨物自動車にはね飛ばされて頭と胸に負傷、直にその車で自宅まで送られ『尼子自動車のものだ』と云ふ運轉手の言を信じ翌朝同自動車部を訪れるとそんな運轉手はゐないとの事に始めて欺かれたものと判つた、同人の傷は段々惡化し最近では起居も不自由な程で看護の爲妻女も稼業に出られず暮しも容易でないのに同情した附近の諸負業丸山德三郎氏が何くれとなく面倒を見てやり昨二十五日は平署に出頭してこの惡德運轉手の搜査方を願ひ出たが車は三十四年型と判つてゐるので近く判明するらしい

師走。酒禍頻り
土瓶を辨償しろと相手の横鬢太を斬る
好間の料亭主人

好間村中好間料理店平町古鍛冶町生れ佐藤一男(三〇)は廿三日午後八時頃泥醉の上同村上好間自轉車業椎名明方に至り前に壞した土瓶を辨償しろと將棋をさしてゐた明の頭部を拳固で毆り一旦家に引返して今度は西洋料理用の小刀で同人の左耳上を切りつけ全治二週間の傷を負はせ平署に檢擧さる

只飲み損ね
湯本で土工二人男

形縣南村山郡生れ土工飯野友太(二九)並に安達郡白石村生れ同渡邊德三郎(二六)の兩名は二十四日夜八時頃湯本町大字湯本字向田料理業秋元キッ方で十二圓餘を飮酒逃走せんとした處を平署に

歸り掛けに 酌婦の襟卷
手長機關手御用

江名町大字仲の作吉田長太郎方機關手青森縣八戶市生れ澤上石之助(二四)は二十六日午前二時頃小名濱町下町料理業大和屋事曾我トモ方でベロ〳〵に飮んだ上同家酌婦藤倉榮(二六)の茶色襟卷(價格二圓五十錢)を竊取逃走せんとした處を平署に檢擧

炭礦事故頻り

湯本町入山炭礦採炭夫關川庄吉(二八)は二十四日午後二時五十分頃坑內で作業中心臟痲痺を起して死亡、又同坑採炭夫山下義雄(三三)は二十四日夜同じく作業中炭車に轢かれて重傷を負つた

武藏山一行
近く來平興行

新進横綱武藏山、關脇新海、同綾昇、巨人出羽嶽其他幕內力士二十數名外元横綱栃木山、同常の花の一行二百五十餘名は近く平町へ乘り込み興行する事になり早くも人氣を呼んでゐる

二十七日（小名濱測候所調查）
日出 六、四五　月出前 七、五一
日沒 四、三〇　月沒後 六、〇四
滿潮 前六、一五 後四、〇五　干潮 前一一、二〇 後一一、五〇

舊十二月二日　金曜　丁丑　先勝　除　婁宿　新十二月廿七日

諸判定總帶
東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 不滿なりとて蕊業を改むるな平抱するが吉▲二黑 他人の事よりも內を顧み平靜を保つべき日▲三碧 目的は容易に遂げ得ず苦勞のみ加り來る日▲四綠 萬事に氣を配りて無理をせざれば安全なり▲五黃 じや氣自ら一家に饒る日病厄災他の災を防げ▲六白 頭角次第に顯れ他の信用加はり向上を呈す▲七赤 心を引締め萬事を處すれば意の如く運ぶ日▲八白 きよはうへんに拘はらず堅實に身を處すべき日▲九紫 當初の目的に專念努力すれば繁榮を來す日

廣告

高久病院
院長 高久忠
平町田町 電五一三

大和田醫院
平町南町
電話一七〇番

木村病院
平町新川町
電話一六四番

木村外科醫院
平町六丁目
電話三〇九番

喪中に付年末年始の禮御遠慮申上候
昭和十年十二月
平町二丁目
西村屋藥舖
鈴木堅助

謹告
店舖新築中に付永らく御不便を相かけ申し居り候處今般愈々改築相成候に付從前通り營業仕るべく候間何卒舊に倍し御引立ての程伏して懇願仕候　敬具
十二月二十六日
大床 石崎幸一
各位

9ミリ半
ポニイ
活動撮影機 ￥18.00
活動映寫機 ￥17.00
西村屋藥舖
平 二・電 三

吸入用酸素 純度99%
度量衡 ハカリ マス モノサシ
計量器 体溫器 寒暖計
◎秤ノ取緒・垂糸・修復致シマス
關內藥局
電話四〇番

諸橋外科醫院
平町新川町二七 電話四六四
內臟外科
皮膚科
花柳病科
レントゲン線
醫學博士 諸橋鐵彌
醫學士 奥義弘

洋服は高島屋
洋服大特賣
男女用學生冬服豊富に取揃
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目 電話三八六番